

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果報告

～本校生徒の良さと課題、改善策について～

5月27日(木)に実施された「全国学力・学習状況調査」(小学6年生と中学3年生を対象)の結果が返却されましたので、全国の中学3年生と比較した本校3年生の傾向等をお知らせします。この調査は、**国語、数学、生徒質問紙調査**の3つの調査となります。国語と数学では「教科学力」を、生徒質問紙調査では、「学習に対する興味・関心」「規範意識・自己有用感」「生活習慣・学習習慣」の各領域について傾向を知ることができる内容になっています。「学習に対する興味・関心」「規範意識・自己有用感」「生活習慣・学習習慣」の各領域は、全国平均よりやや高い数値となりました。

なお、3年生には個々の結果を返却しました。この結果をもとに、自分の学習の振り返り、今後活かしてほしいと思います。また、1年生及び2年生は、本校の傾向と分析を参考にしてください。

本校の傾向と改善策

調査結果から読み取れる本校の傾向及び分析は、次のとおりです。なお、本学力調査によって分かるものは学力の特定の一部であり、本結果が本校生徒の学力の実態のすべてを示すものではありません。

(1) 国語に関して

本校は、全国平均正答率やや低い結果となっています。

○領域別では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国平均を上回りました。これは、韻文教材や古文、漢文教材で、一人音読、二人組音読など音読活動を多く取り入れていることや実際に声を出して学習する体験型学習を行っている成果と考えられます。また、国語辞典を多く活用することで語彙を増やす指導をしています。今後も工夫した授業展開を行っていききたいと思います。

△「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域は全国平均よりもやや低い結果となりました。「話すこと・聞くこと」では、目的に沿った話し合い活動の体験場面を増やしていく必要があると考えられます。「聞く問題」のテストを取り入れていくことも考えられます。

△「書くこと」では、文章構成を意識した「少年の主張」を書く指導をしたり、テーマと時間を設定して文章を書く指導をしてきました。今後は、多様な情報(絵、グラフ、写真、意見文など)から自分の考えや意見を書く作文練習やワークシートを工夫した授業を行っていききたいと思います。

△「読むこと」では、叙述に即して内容が読み取れるよう指導をしたり、読み取ったことを適切にまとめる力を養う指導を行ってきました。語彙力の不足や文章の構成や話の中心を捉えられるように、文章構成や展開に着目した読解指導やワークシートの工夫が必要だと考えられます。国語辞典を積極的に活用させて、文脈の中での語句の意味を的確に捉えさせる指導を更に継続していききたいと思います。学習の流れや自己課題がつかめ、毎時間の学習のねらいがはっきりわかる評価カードを活用することで、主体的に学習に取り組む姿勢とつくっていききたいと思います。



大型黒板を活用した授業



タブレットを活用した授業

(2) 数学に関して

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。

○各設問の無解答率は、全国平均よりも良い数値でした。これは令和2年度に1クラスを2つに分けた少人数で授業を行うことで、数学が苦手な生徒も積極的に授業に参加して、学習意欲につながったと考えられます。まとめプリントの実施や演習時間の十分な確保によって、基礎基本の定着が少しずつ身につき始めていると考えられます。

△領域別では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の分野が全国平均よりやや低いという実態がありました。今後は、学習内容の基礎基本が、より定着するように家庭学習の工夫や授業で発展問題を扱うなど工夫をしていきたいと思えます。チャレンジプリントを用意して、個別に学習に取り組める工夫をしていくことも考えられます。さらに、デジタル教科書や電子黒板が導入されましたので、関数のグラフや図形など、イメージしにくいものを可視化できる工夫やICTを活用した授業展開にこころがけていきたいと思えます。

(3) 生徒質問紙調査に関して

◇「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の項目では、全国平均より高い数値となっています。これは、基本的な生活習慣が身に付いている傾向にあることを表しています。引き続き、ご家庭でのご協力をお願いします。

◇「自分には、よいところがあると思う」と「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より高い数値となっています。これは、生徒の自己有用感が高いことを表しています。今まで以上に、キャリア教育や生徒主体の学校行事を充実させ、自己肯定感や自己有用感を高めていきたいと思えます。

◇「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」では、全国平均より高い数値となっています。規範意識をもって生活している生徒が多いことが数値からも分かります。今後も生徒自身に考えさせる場面を大切に、「どうしたら良いか」考え、実行させ、生徒を褒める場面を多くしていきたいと思えます。

◇「地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」は、全国平均より高い数値になっています。コロナ禍において夏祭りの中止など、活動制限がある中でも、地域の方々に育てられていることがわかります。ありがとうございます。

◇「家で、自分で計画を立てて勉強している」や、家での「平日の平均勉強時間」も低い結果となっています。目標を持ち、自主的・積極的に課題に取り組ませる工夫と必要性があります。

◇「家には、およそどのくらい本がありますか」や「新聞を読んでいますか」の項目は全国平均より低い状況でした。学校の休み時間にメディアホールを活用している生徒はたくさんいます。朝の読書やメディアホールでの図書を借りる機会を一層大切にするなど、推進していきたいと思えます。

本調査は5月に実施されたもので、現在はその時から3ヶ月余りが経ち、この間も生徒のたくましく成長した姿が多く見られています。学校では、学力向上に向けての取り組みや学校行事の工夫等、生徒を成長させる活動となるように努力していきます。ご家庭におかれましても、テスト結果や通信等を持ち帰った際に、お子さんに励ましやアドバイスの声をかけていただくなど、ご協力いただきたいと思えます。今後も、学校と家庭で連携して生徒の様々な力を共に育てていきたいと思えます。ご理解とご協力をよろしくをお願いします。